

中島組鯨船神徳丸 船体横幕新調事業報告書

平成 31 (令和元) 年度～令和 3 年度

重無民 鳥出神社の鯨船行事 民俗文化財伝承・活用等事業



令和 4 年 3 月

三重県四日市市
富田鯨船保存会連合会

行事の様子



新幕の装着状況



新調幕全景

左幕



右幕



現行幕全景

左幕



右幕



例 言

- (1) 本書は、国庫補助を得て実施した「平成31(令和元)年度～令和3年度 重無民鳥出神社の鯨船行事 民俗文化財伝承・活用等事業」のうち、「船体横幕新調事業」の報告書である。本書では、横幕の新調に関することについて報告する。なお、同補助事業により平成31年度に完了した「屋形屋根幕新調事業」については、令和2年度に報告書を刊行しているので、参照されたい。
- (2) 本書の執筆ならびに編集については、富田鯨船保存会連合会（会長 加藤正彦・中島組鯨船神徳丸保存会会長（令和3年度は顧問））と百武打敷店及び四日市市教育委員会社会教育・文化財課が共同で行った。
- (3) 重要無形民俗文化財「鳥出神社の鯨船行事」の詳細については、平成14年3月に四日市市教育委員会が刊行した『北勢鯨船行事調査報告書』を参照されたい。

目 次

巻頭カラー	行事の様子、横幕の装着状況
	新調幕全景
	現行幕全景

I. 国指定重要無形民俗文化財「鳥出神社の鯨船行事」の概要

1. 所有者名称	1
2. 指定年月日	1
3. 指定書の記号番号	1
4. 行事の概要	1

II. 修理事業の経過

1. 修理の経緯	2
2. 現状調査及び修理方針の立案	2
3. 修理指導委員会	2
4. 事業の経過	4

III. 製作報告

1. 製作委託	14
2. 横幕復元新調方針	14
3. 製作仕様	14
4. 仕様における変更箇所と変更理由	16
5. 図案製作仕様	21
6. 各工程内容と技法の詳細	26
7. 横幕の船体への取付け	35

I. 国指定重要無形民俗文化財「鳥出神社の鯨船行事」の概要

1. 所有者名称

富田鯨船保存会連合会
中島組鯨船神徳丸保存会
北島組鯨船神社丸保存会
古川町鯨船権現丸保存会
南島組鯨船感應丸保存会



2. 指定年月日

平成9年(1997)12月15日

3. 指定書の記号番号

第340号

4. 行事の概要

鯨船行事は、伝統的な捕鯨習俗を風流行事の中に取り入れたもので、鯨の発見と追跡、鯨の反撃、鉾打ちなどの所作をストーリーをもって行う行事である。この行事は、四日市市を中心とした北勢地域にだけ分布しており、陸上の捕鯨行事として全国的に貴重である。平成元年(1989)2月27日には、三重県熊野地方の海上の模擬捕鯨行事とともに、「北勢・熊野の鯨船行事」として「記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財」に選択されている。また、平成28年(2016)12月1日には、ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)の無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」に、全国33の団体の一つとして登録された。

「鳥出神社の鯨船行事」は、他の伝承地が鯨船山車1台で行事を行っていたり、祭礼の練りの一部として鯨船行事が伝承されたりしているような状況と比べ、一つの行事に4台の鯨船山車があり、それぞれが数町から十数町で構成される組単位になっているという特徴を有している。

鳥出神社の鯨船行事では、豪華な装飾が施された鯨船山車、神徳丸・神社丸・権現丸・感應丸(毎年4台のうち2～3台)が曳き出される。8月14日の朝、鳥出神社で各組の関係者による鎮火祭があり、その後それぞれの町で鯨船を曳き回す町練りが行われる。翌15日には、鳥出神社への奉納として境内で本練りが行われる。

鯨船山車は、150以上もの彫刻や幕などの部品で豪華に装飾されており、船体の上には屋形が組まれている。各組の鯨船山車は、寸法、装飾などが異なっており、例えば、船体装飾を大きく占める船体横幕の刺繍は、中島組神徳丸と南島組感應丸は龍と波(神徳丸は昼の穏やかな海を渡る図で、感應丸は夜の荒い海を渡る図)、神社丸は鯨と波、権現丸は千鳥と波となっており、それぞれに個性のある図柄が緋羅紗に施されている。

このように鯨船山車は華麗に装飾されているが、練りでは、山車を前後左右に大きく動かして海上で船が揺れる様子を表したり、急激に回転させたりと激しい動作をするため、山車の傷みが非常に早い。保存会では、小規模な破損については地元の協力も得て、自前で修復を行いながら行事を続けてきている。

Ⅱ. 修理事業の経過

1. 修理の経緯

ユネスコ無形文化遺産に登録された平成28年度頃、4組の鯨船山車それぞれに修理を要望する声を各保存会が上げたことから、富田鯨船保存会連合会として文化庁の補助事業を計画、申請し、おおよそ下記のジュールで進めた。

平成29年度 各組の鯨船山車の現状調査及び修理方針の立案

平成30年度 修理指導委員会を立ち上げ、文化庁と協議

平成31(令和元)年度 国庫補助事業として修理を開始(中島組鯨船山車神徳丸から)

令和3年度 中島組鯨船山車神徳丸の修理(幕の復元新調)完了

2. 現状調査及び修理方針の立案

平成29年度に各組の鯨船山車を調査した。概要は以下のとおりである。

調査日	調査対象	調 査
11月20日	中島組神徳丸 横幕及び屋形屋根幕	藤井健三(西陣織会館 顧問) 鬼頭秀明(四日市市文化財保護審議会委員)
	南島組感應丸 屋形屋根幕	久志本まどか(四日市市文化財保護審議会委員)
11月27日	古川町権現丸 山車船体	野村史隆(鳥羽市教育委員会 嘱託職員) 鬼頭秀明(四日市市文化財保護審議会委員) 久志本まどか(四日市市文化財保護審議会委員)
12月3日	北島組神社丸 装飾部材の彫刻・漆・ 金箔等	山崎 剛(金沢美術工芸大学 教授) 鬼頭秀明(四日市市文化財保護審議会委員) 久志本まどか(四日市市文化財保護審議会委員)

調査の結果を報告書等でいただき、下記のとおり、現状を把握し修理方針を立案した。

※関係分のみ。他の組については『中島組鯨船神徳丸 屋形屋根幕新調事業報告書 令和3年3月』を参照されたい。

修理対象	現 状	修理方針案
中島組神徳丸 横幕及び屋形屋根幕	横幕) 製作から約50年を経て、経年劣化と応急の修理により、刺繍の欠失や破れなど損傷が目立つ 屋根幕) 約100年前の製作とみられ、基布の退色が著しい	横幕) 復元新調が適当 屋根幕) 復元新調か一部再利用修理か検討

3. 修理指導委員会

平成29年度の調査を受け、平成30年度に文化庁及び三重県教育委員会と協議を行い、平成31(令和元)年度より国庫補助による修理事業を開始する見込みとなった。保存会は、「鳥出神社の鯨船行事山車修理指導委員会」を立ち上げ、事業開始に向けた詳細な計画を検討した。

(1) 鳥出神社の鯨船行事山車修理指導委員会（平成30年度）の構成

鬼頭秀明	（委員長）中京大学非常勤講師・四日市市文化財保護審議会委員
久志本まどか	（副委員長）民俗芸能研究者・四日市市文化財保護審議会委員
藤井健三	西陣織会館顧問
野村史隆	鳥羽市教育委員会嘱託職員・元海の博物館職員
山崎 剛	公立大学法人金沢美術工芸大学学長
渡邊繁勝	富田鯨船保存会連合会会長・南島組鯨船感應丸保存会会長
加藤正彦	富田鯨船保存会連合会副会長・中島組鯨船神徳丸保存会会長
鈴木裕也	北島組鯨船神社丸保存会会長
吉田初男	古川町鯨船権現丸保存会会長



(2) 事業着手に向けた委員会の開催

日 時 平成30年10月16日（火）午後1時～3時30分

場 所 四日市市東富田町 東富田会館

出席者 委員（上記委員）

三重県教育委員会 社会教育・文化財保護課 小濱班長・櫻井主任

四日市市教育委員会 社会教育課 川尻課長・葛山課長補佐・吉田主幹

検討・確認事項（概要） ※横幕関係分

○各山車の修理方針について

・中島組神徳丸横幕

平成20年度から23年度に行った古川町、南島組、北島組の横幕復元新調事業の際に取り決めた「横幕取り扱い基本方針」に基づき、約50年経過した本横幕において、その損傷状況を鑑み、修理方法として復元新調とする。

○修理工程について

・4艘の順序

修理を実施する順序については、保存会の意向に沿いつつ効率性を鑑み修理方法が似通ったものを連続することとし、中島組神徳丸、南島組感應丸、北島組神社丸、古川町権現丸の順とする。なお、緊急性の観点から検討の要望があった北島組神社丸の修理については、別途行う調査の結果をもってあらためて協議することとした。

・実施年度

保存会からは鯨船1台につき単年度修理を要望したが、修理の経費は各組とも高額で、かつ施工前の準備期間も必要と見込まれることから、各組複数年の計画とし、最初の中島組神徳丸は平成31（令和元）年度から平成33（令和3）年度までの3ヶ年、以後は2ヶ年ずつの計画とすることとなった。

○平成31（令和元）年度の中島組神徳丸修理について

3ヶ年のうちの1年目は、①横幕の復元新調に係る仕掛け、図柄ひな形作製、②屋根形屋根幕の復元新調及び木工修理、③修理指導委員会3回及び製作監修各1回（繊維及び木工）、とした。なお、この時点では、2年目は右横幕製作、3年目は左横幕製作及び事業報告書作成とした。

4. 事業の経過

(1) 関係文書・委員会等の経過 ※横幕関係分

〔平成30年度〕

- 平成31年 1 月25日 平成31年度（第1回）文化財関係国庫補助事業通知（内示）
- 1 月29日 平成31年度国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金交付申請書提出
- 3 月22日 請負業者入札、百武打敷店に決定

〔平成31（令和元）年度〕

- 平成31年 4 月 1 日 補助金交付決定通知受理
- 4 月 2 日 富田鯨船保存会連合会と百武打敷店が請負契約締結、着工
- 令和元年 5 月15日 第1回修理指導委員会開催
- 8 月14日 鯨船行事町練り等実施（15日の本練り等は台風接近により中止）
- 10月 4 日 第 2 回修理指導委員会開催
- 10月 7 日 計画変更承認申請書提出
- 11月12日 繊維関係製作監修（工房・百武打敷店）
- 11月20日 計画変更承認通知受理
- 令和 2 年 1 月27日 令和 2 年度国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金交付申請書提出
- 2 月 4 日 第 3 回修理指導委員会開催（検収）
- 3 月23日 平成31年度国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金実績報告書提出

〔令和 2 年度〕

- 令和 2 年 4 月 1 日 補助金交付決定通知受理
- 4 月10日～6 月 6 日 「協議記録」を作成し、委員会として進捗を確認
- 7 月21日 第 1 回修理指導委員会開催
- 8 月14日・15日 鯨船行事、新型コロナウイルス感染対策のため中止
- 12月 9 日 計画変更承認申請書提出
- 12月10日 書面による確認書および意見書送付
- 12月21日 計画変更承認通知受理
- 12月23日 書面による確認、決定
- 令和 3 年 1 月22日 令和 3 年度国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金交付申請書提出
- 2 月16日 繊維関係製作監修（工房・百武打敷店）
- 3 月30日 第 2 回修理指導委員会開催（検収）
- 3 月31日 令和 2 年度国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金実績報告書提出

〔令和 3 年度〕

- 令和 3 年 4 月 1 日 補助金交付決定通知受理
- 8 月14日・15日 鯨船行事、新型コロナウイルス感染対策のため中止
- 10月 7 日 繊維関係製作監修（工房・百武打敷店）
- 10月11日 第 1 回修理指導委員会開催
- 12月23日 横幕船体取り付け確認

令和4年2月7日 第2回修理指導委員会開催（検収）

3月31日 令和3年度国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金実績報告書提出

（2）鳥出神社の鯨船行事山車修理指導委員会（平成31（令和元）年度～令和3年度）

鬼頭秀明	（委員長）中京大学非常勤講師・四日市市文化財保護審議会委員
久志本まどか	（副委員長）民俗芸能研究者・四日市市文化財保護審議会委員
藤井健三	西陣織会館顧問
野村史隆	鳥羽市教育委員会嘱託職員・元海の博物館職員
山崎 剛	公立大学法人金沢美術工芸大学学長
加藤正彦	富田鯨船保存会連合会会長・中島組鯨船神徳丸保存会会長 （令和3年度から中島組鯨船神徳丸保存会顧問）
鈴木裕也	富田鯨船保存会連合会副会長・北島組鯨船神社丸保存会会長
道上秀則	古川町鯨船権現丸保存会会長
渡邊繁勝	南島組鯨船感應丸保存会会長（平成31（令和元）年度まで）
渡部秀男	南島組鯨船感應丸保存会会長（令和2年度から）
伊藤公明	中島組鯨船神徳丸保存会会長（令和3年度から）

（3）修理指導・監修の記録 ※横幕に関わることのみ記述

【平成31（令和元）年度】

①第1回鳥出神社の鯨船行事山車修理指導委員会

日 時 令和元年5月15日（水）午後1時15分～3時35分

場 所 四日市市東富田町 東富田会館

出席者 修理指導委員会 鬼頭委員長・久志本副委員長・藤井委員・野村委員・山崎委員・
加藤委員・鈴木委員・道上委員

文化庁文化財第一課 小林主任文化財調査官

三重県教育委員会社会教育・文化財保護課 小濱班長・小原主任

四日市市教育委員会社会教育・文化財課 川尻課長・葛山課長補佐・三厨主幹

請負業者 百武打敷店

検討・確認事項（概要）

- ・当年度の成果品は、下絵、構図、試作品の製作および材料の確認とした。
- ・スケジュールの確認、仕様の確認及び部分的な見直しを行った。
- ・左幕の尻尾の宝剣が後補のようであるので、過去の写真等を調べる。
- ・次年度以降の製作工程について、令和2年度は左右の龍の刺繍（切付）を製作し、令和3年度に基布の刺繍と切付の取り付け、仕立てを行うことを了承する。

②第2回鳥出神社の鯨船行事山車修理指導委員会

日 時 令和元年10月4日（金）午後1時45分～3時45分

場 所 四日市市東富田町 東富田会館

出席者 修理指導委員会 鬼頭委員長・久志本副委員長・藤井委員・野村委員・山崎委員・
加藤委員・道上委員、（代理）渡辺氏（北島組）・伊藤氏（南島組）

三重県教育委員会社会教育・文化財保護課 小原主任

四日市市教育委員会社会教育・文化財課 葛山課長補佐・三厨主幹
請負業者 百武打敷店

検討・確認事項（概要）

- ・基布裂の厚さを、現行幕は1.5mmであるが、現在の規格である1.6mmとする。
- ・龍の髭の素材を、仕様書では銅線としたが現品が鉄であったので、鉄線とする。

③製作監修（工房）

日 時 令和元年11月12日（火）午後1時15分～3時40分

場 所 愛知県愛西市 百武打敷店

監修者 修理指導委員会 藤井委員

立会い 保存会 加藤会長

四日市市教育委員会社会教育・文化財課 葛山課長補佐・三厨主幹

指導・確認事項（概要）

- ・竜の首元周辺の試作品を確認、刺繍の技法については可とされる。
- ・金糸の綴じ糸の色について、赤系統、青系統それぞれ各2色試している。次回の委員会で確認、決定する。
- ・龍の牙について、現行幕のものは通常より小さいようで後補かもしれない。また、取れてしまっているようでもあり、過去の資料など調査が必要。下絵に適当な大きさを想定して書き入れて、委員会で確認する。
- ・龍の宝剣は過去の資料が見当たらない。相応のものを調べる。

④第3回鳥出神社の鯨船行事山車修理指導委員会

日 時 令和2年2月4日（火）午後2時～3時40分

場 所 四日市市東富田町 東富田会館

出席者 修理指導委員 鬼頭委員長・久志本副委員長・藤井委員・野村委員・山崎委員・
加藤委員・鈴木委員・道上委員、（代理）伊藤氏（南島組）

三重県教育委員会社会教育・文化財保護課 小濱班長

四日市市教育委員会社会教育・文化財課 葛山課長補佐・三厨主幹

請負業者 百武打敷店

検討・確認事項（概要）

- ・平成31（令和元）年度の成果品である下図、構図、試作品、材料を確認、検収、承認された。
- ・2種類の綴じ糸について、赤系統、青系統、それぞれの採用色を決定した。
- ・基布フェルト生地、裏の赤色生地について、見本のとおり決定した。
- ・基布上縁の黒色布は、現在では同じ素材がないため、極力近い素材の見本のものを確認のうえ決定した。
- ・次年度の事業について、左右の龍の刺繍（切付）製作で、牙、爪、宝剣等金属品の製作も含む。スケジュール等を確認する。
- ・牙と爪の大きさおよび宝剣のデザインについて、復元新調を基本とするが、資料を集め、文化庁担当官も出席する委員会で協議することとした。

【令和2年度】

①年度当初事業着手におけるメール等による協議

令和2年になって猛威を振るい出した新型コロナウイルスの感染拡大が4月以降も収まらず、事業の開始時における修理指導委員会の開催および工房監修が実施できなかったため、藤井委員と百武打敷店による写真、メール等を利用した監修を行い、その協議記録を作成し、各委員へ送付することで委員会として確認した。

○協議の経過

「協議記録No.1」 4月10日～4月12日

- ・龍の切付の真綿の肉入れ

試作品がやや厚いという指摘を受けているが、現品が経年劣化でへたりがあることを考慮しての厚みで肉入れすることを指示される。

「協議記録No.2」 4月17日～4月21日

- ・龍の切付の肉入れ後の金糸刺繍の途中経過

龍の鱗の凹凸が写真では分かりにくいところもあるが、写真の角度や定規を当てなどの工夫で理解を得た。

「協議記録No.3」 5月20日～5月22日

- ・各切付の進捗状況

順調に進んでいるようとの了承を得た。

綴じ糸についてはできるだけ折り返し近くまで押さえるように指示される。

「協議記録No.4」 6月6日

- ・鬼頭委員長、藤井委員により実見（別件での来店）

切付の進捗を直接確認、可とされる。

②第1回鳥出神社の鯨船行事山車修理指導委員会

日 時 令和2年7月21日（火）午後1時30分～4時10分

場 所 四日市市東富田町 東富田会館

出席者 修理指導委員会 鬼頭委員長・久志本副委員長・藤井委員・山崎委員・
加藤委員・鈴木委員・道上委員・伊藤委員

文化庁文化財第一課 加藤文化財調査官

三重県教育委員会社会教育・文化財保護課 渡辺主任

四日市市教育委員会社会教育・文化財課 伊藤課長・葛山課長補佐・三厨主幹

請負業者 百武打敷店

保存会 広瀬氏・市川氏（中島組）

検討・確認事項（概要）

- ・事業全体の計画、当年度4月からの経過を報告。
- ・龍の金属品（牙、爪、宝剣）の製作について協議する。現品で不具合がある場合は、委員会で協議し、最適と考えられるものを検討するとした。
- ・牙は、顔の大きさに比してやや小さい。形状はそのまま、やや大きく新調する。
- ・爪は現状通り新調し、元の取り付け位置に戻す。



- ・宝剣は後補であるが、今のデザインにも意味があると考え、形状は踏襲し、大きさはやや小さくする。元はより立体的と考えられ、取り付け位置は少し上げる。
- ・宝剣のデザインを調整し、取り付け位置と併せ、再度委員会（書面）で確認して了承を得ることとした。

③協議事項（宝剣デザイン）の書面による意見確認の経過

宝剣のデザインについて、第1回委員会の協議を踏まえ、かつ、保存会の要望を組み入れて検討を行い、宝剣そのものというより菱形を呈する現在の形状は残し、尾に巻き付いているように表現したデザインとし、取り付け位置を設定した。

12月10日付で、そのデザイン案および取り付け位置について各委員に確認書を送付し、意見聴取および賛否を諮り、オブザーバー（文化庁担当官、県教育委員会）には意見聴取を行った。

12月23日に集計した結果、以下のとおりとなった。

- ・示したデザイン案について

委員9名中、「賛」7名、「否」1名、無回答（加藤会長に一任）1名

これにより、委員会としてデザインおよび取り付け位置を決定した（新旧の写真はP18に掲載）。なお、意見として、「協議を経て、保存会、委員会において、バランスをみて最終決定していただければ」、「安易な変更は、将来的に行事が持つ文化財としての価値や内容を変えてしまう可能性をはらんでいるが、行事を行う保存会や町の方々の意見、意向を重く受け止める」などがあった。

④製作監修（工房）

日 時 令和3年2月16日（火）午前11時30分～正午

場 所 愛知県愛西市 百武打敷店

監修者 修理指導委員会 鬼頭委員長・藤井委員

指導・確認事項（概要）

- ・龍の切付の完成を確認、可とされる。
- ・新調する金属品の打ち出した形状を確認、可とされる。



⑤第2回鳥出神社の鯨船行事山車修理指導委員会

日 時 令和3年3月30日（火）午前10時30分～午後12時15分

場 所 四日市市役所 6階本部員会議室（リモート併用）

出席者 修理指導委員会 鬼頭委員長・久志本副委員長・藤井委員・山崎委員（リモート）・伊藤委員・道上委員・（代理）伊藤氏（中島組）

三重県教育委員会社会教育・文化財保護課 渡辺主任

四日市市教育委員会社会教育・文化財課 伊藤課長・葛山課長補佐・三厨主幹

請負業者 百武打敷店

保存会 渡辺氏（南島組）・市川氏（中島組）

検討・確認事項（概要）

- 中島組神徳丸横幕について

- ・当年度の事業計画を精査し、前年度完成した屋形屋根幕の新調報告書を刊行する。
- ・当年度の成果品（龍の切付、刺繍以外の付属品）の確認、検収を行った。
- ・龍の切付、目玉、牙、爪、宝剣、いずれも了承された。
- ・令和３年度は、２年度の成果品を基布に取り付け、波濤文様などを直接基布に縫い付ける。
- ・ボルト孔をあける際、船に直接あてて位置を確認するよう指示される。

○南島組感應丸屋形屋根幕について

- ・令和４年度以降の事業であるが、特殊な苫幕であり、現行幕の確認、製作方法の検討を始める。

【令和３年度】

①令和３年度事業の開始に関して

年度当初に修理指導委員会および製作監修を実施し、当年度事業を速やかに開始する計画であったが、収束をみない新型コロナウイルス感染への対策のため、委員会の開催や工房への製作監修は見送った。当年度事業としては、基布への刺繍や龍の切付を基布に取り付ける作業であるため、比較的困難さがないことから、百武打敷店が藤井委員に直接、写真やメールで指導を受ける形式で開始した。

②製作監修（工房）

日 時 令和３年10月7日（木）午前10時45分～11時

場 所 愛知県愛西市 百武打敷店

監修者 修理指導委員会 鬼頭委員長・藤井委員

指導・確認事項（概要）

○中島組神徳丸横幕について

- ・刺繍に関して順調であり、可とされる。

○南島組感應丸苫幕について

- ・試作品を確認、出来は可とできるものと了承を得た。

③第１回鳥出神社の鯨船行事山車修理指導委員会

日 時 令和３年10月11日（月）午後２時15分～４時50分

場 所 四日市市東富田町 東富田会館

出席者 修理指導委員会 鬼頭委員長・藤井委員・野村委員・山崎委員・
加藤委員・渡部委員・（代理）佐藤氏（北島組）

文化庁文化財第一課 加藤文化財調査官

三重県教育委員会社会教育・文化財保護課 渡辺主任

四日市市教育委員会社会教育・文化財課 伊藤課長・葛山課長補佐・三厨主幹
請負業者 百武打敷店

保存会 伊藤氏・渡辺氏（南島組）

検討・確認事項（概要）

○中島組神徳丸横幕について

- ・ボルト孔について、経年による伸縮を考慮し、長さ５cm以下の横方向のスリット

とすることが了承された。

- ・ 現行幕ではボルト孔と刺繍が重複する箇所があるが、船体との現地合せて刺繍のない箇所で穿孔できればよい、とされた。
- ・ 製作後の収納の仕方について、刺繍の薄い箇所で折り曲げ、折り目が見つからないよう緩く曲げ、収納箱は災害時に運びやすいサイズであることも必要と指摘があった。
- ・ 年末に予定する船体への取り付け確認は、写真で各委員へ報告することが了承された。

○南島組感應丸屋形屋根幕について

- ・ 苫幕の製作方法について百武打敷店より試作品を基に提案があり、協議の結果、提案された方法が妥当として了承された。

④第2回鳥出神社の鯨船行事山車修理指導委員会

日 時 令和4年2月7日（月）午後1時50分～3時15分

場 所 四日市市東富田町 東富田会館

出席者 修理指導委員会 鬼頭委員長・久志本副委員長・藤井委員・

加藤委員・鈴木委員・道上委員・（代理）伊藤氏（南島組）

三重県教育委員会社会教育・文化財保護課 渡辺主任

四日市市教育委員会社会教育・文化財課 伊藤課長・葛山課長補佐・三厨主幹

請負業者 百武打敷店

保存会 佐藤氏（北島組）・伊藤氏（中島組）・渡辺氏（南島組）

検討・確認事項（概要）

○中島組神徳丸横幕について

- ・ 12月22日に新調品を船体に取り付け、保存会から了承されたことを報告し、実物を確認、検収を受け、横幕の製作としては完了した。
- ・ 当年度事業としては、横幕の製作報告書を刊行することを報告した。

○南島組感應丸屋形屋根幕について

- ・ 苫幕の製作事業について、事業内容、スケジュール等を確認した。

○北島組神社丸修理事業について

- ・ 令和6年度以降の事業であるが、事前の調査が必要であり、おおよそのスケジュールについて委員会に諮り、確認した。



横幕製作工程表

		平成31・令和元（2019）年									令和2（2020）年		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
修理指導委員会			第1回 5/15					第2回 10/4				第3回 2/4	
製作監修									工房 11/12				
復元新調	現幕分析	契約 4/2	仕様 確認		行事準備・催行期間								
	材料選定・調達		確認					確認	確認				
	刺繍の下絵および構図作製							確認	確認			検収納品	
	試作品の作製								確認			検収納品	

		令和 2 (2020) 年									令和 3 (2021) 年		
		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月
修理指導委員会			写真、メール等で確認 協議記録作製、確認		第1回 7/21					書類確認 12/23			第2回 3/30
製作監修												工房 2/16	
復元新調	龍刺繍(切符)作製	確認			確認	行事中止				計画 変更		確認	検収 納品
	報告書作成(屋根幕)									原稿 作成		編集 入札	印刷 納品

		令和3（2021）年									令和4（2022）年		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
修理指導委員会								第1回 10/11				第2回 2/7	
製作監修		写真、メール等で確認						工房 10/7					
復元新調	波濤文様刺繍作製（基布直縫い）					行事中止		確認					
	龍刺繍（切符）取付け							確認					
	仕立て								船体取付 確認			検収納品	
報告書作成（横幕）		原稿 作成										編集 入札	印刷 納品

(4) 事業費に係る収支報告（補助対象分）

【平成31（令和元）年度】

※横幕復元新調の他、屋形屋根幕復元新調に係る経費等も含む

① 収入の部

科 目	収 入 額
保存会負担	480,000円
国・県・市補助金	1,920,000円 (内訳) 国 1,200,000円 県 240,000円 市 480,000円
合 計	2,400,000円

② 支出の部

科 目	支 出 額
製作請負費	2,190,056円
委員会費等	209,944円
合 計	2,400,000円

【令和2年度】

※横幕復元新調の他、屋形屋根幕復元新調に係る経費等も含む

① 収入の部

科 目	収 入 額
保存会負担	968,000円
国・県・市補助金	3,872,000円 (内訳) 国 2,420,000円 県 484,000円 市 968,000円
合 計	4,840,000円

② 支出の部

科 目	支 出 額
製作請負費	4,530,900円
委員会費等	309,100円
合 計	4,840,000円

【令和3年度】

① 収入の部

科 目	収 入 額
保存会負担	526,000円
国・県・市補助金	2,104,000円 (内訳) 国 1,315,000円 県 263,000円 市 526,000円
合 計	2,630,000円

② 支出の部

科 目	支 出 額
製作請負費	2,134,000円
委員会費等	496,000円
合 計	2,630,000円

Ⅲ. 製作報告

1. 製作委託

百武打敷店 愛知県愛西市大井町石池 106 番地
店 主 百武 信子
技術者 百武 弓弦（祭屋台等製作修理技術者会会員）

2. 横幕復元新調方針

横幕は、左右一対2枚により構成される。幕の形状および刺繍図案は、原則として現行幕のとおりに復元し製作する。ただし、幕の装着に関わる利便性・耐久性および刺繍図案の美観を勘案し、必要と認められる仕立て仕様・寸法および刺繍図案・鍔金具の形状の変更については、保存会の意向を踏まえ、監修委員の指導を仰ぎ、修理指導委員会の確認、協議の上決定する。

3. 製作仕様

(1) 素材

基布表生地 緋羅紗（織フェルト 1.6mm 厚 ウール 90% / ナイロン 10%）
（目付 700g/㎡ 堅牢染め 撥水加工品）（赤色）
基布裏生地 木綿平織ハンプ地（赤色）
一文字裂および乳 純毛平織ジョーゼット地（黒色）
刺繍糸 本金糸（本金山吹 4 号箔 純金 94.43%、純銀 4.91%、純銅 0.66%）
生絹糸（国産絹 100% 28 デニール / 14 片）
刺繍綴じ糸 フジックス タイヤー 正絹ミシン糸
龍（切付）取付糸 フジックス シャペスパン ポリエステルミシン糸 30 番・50 番
仕立て糸 テイジン ダイヤフェザーテトロン ポリエステルミシン糸 40 番
フジックス シャペスパン ポリエステルミシン糸 30 番・50 番

鍔金具

①龍の目玉（3 重加工）

- ・上面（瞳孔部） 銅版（0.5mm 厚）打出し加工 漆焼付け仕上げ
- ・中面（黒目部） 銅版（0.5mm 厚）打出し加工 本金電気メッキ仕上げ
- ・下面（白目部） 銅版（0.8mm 厚）打出し加工 クロムメッキ仕上げ
- ・上面（瞳孔部） 金具の裏面 1 ヶ所および下面（白目部）金具の裏面 1 ヶ所（目玉小）、
又は 2 ヶ所（目玉大）に金具取付け用の割ピンを溶接加工

②龍の爪・牙

銅版（0.5mm 厚）打出し加工 クロムメッキ仕上げ
金具の裏面 1 ヶ所に金具取付け用の割ピンを溶接加工

③宝剣

銅版（0.8mm 厚）打出し加工 クロムメッキ仕上げ
金具の裏面 4 ヶ所に金具取付け用の割ピンを溶接加工
裏座金 銅版（0.8mm 厚）

その他

①龍（切付）の肉盛り加工

- ・切付刺繍作製時の肉盛り箇所の肉入れ 生成真綿（綿100%）
- ・切付の基布への取り付け時の肉入れ 混紡綿（綿90% ポリエステル10%）

②龍の髭

- ・芯材（針金Φ1.0mm）に野紙（太さ調整用）および本金糸5、6、7掛を巻き付け加工

（2）刺繍技法（刺繍図案 波濤に龍）

龍 駒縫い（切付）

波文様 駒縫い（基布に直縫い）

※刺繍仕様の詳細については後記の図案製作仕様（一覧）参照

（3）仕立て仕様

基布

①額縁仕立て

②一文字部裏面に幕装着用ロープ通し用の乳の縫い付け

③鉄パイプ孔（船首1ヶ所） 上部開口コの字型ボタンホールかがり（補強布あて）

④ボルト孔（水押し木枠装着用2ヶ所） 横スリットボタンホールかがり（補強布あて）

⑤ボルト孔（下辺木枠装着用5ヶ所） 横スリットボタンホールかがり（補強布あて）

⑥寸法（後述のとおり）

幕の船体側面装着用ロープ 化繊クレモナロープ（Φ3mm 3本綱撚り）

○幕の船体側面装着方法

①幕一文字の裏面の乳に、船体側面装着用ロープを通し、船首最前端のフックと後端の船体横棒にロープを結び、ロープをしっかりと張る。

②船首側から順に、船体側面上辺のフックにロープを引掛け、幕を船体側面に装着する（左舷側フック13ヶ所、右舷側フック11ヶ所）。

4. 仕様における変更箇所と変更理由

（1）素材

基布表生地

①現行幕 緋羅紗

経年劣化が進み、生地はかなりやせており、生地色の退色が進んでいるため、正確な生地厚と色目は不明である。

②新調幕 緋羅紗

現品に準ずる生地の入手が困難なため、経年使用の耐久性に優れ、耐水・退色劣化を抑える、撥水・堅牢染め加工を施したウール地織フェルトを採用した。生地厚は、祭礼幕の標準的な1.6mm厚とした。

基布裏生地

- ①現行幕 平織毛織物（赤色）
- ②新調幕 木綿平織ハンプ地（赤色）

現品に準ずる生地の手入が困難なため、似寄りの生地の中で、経年使用の耐久性に優れ、生地の変形とへたりが少ない木綿ハンプ生地を採用した。

一文字裂

- ①現行幕 サージ毛織物（黒色綾織毛織物）
- ②新調幕 純毛平織ジョーゼット地（黒色）

現品に準ずる生地の手入が困難なため、純毛で似寄りの色目と風合いの生地を採用した。

龍（切付）の基布への取り付け時の肉入れ素材

- ①現行幕 不明
- ②新調幕 混紡綿（綿 90% ポリエステル 10%）

現行幕の綿は経年劣化によるへたりがひどく、肉盛り部分が型崩れを起こしている。これを踏まえ、綿 100%素材に比べへたりを抑え、弾力性のある混紡綿を採用することとした。

（2）仕立て仕様

経年使用による基布の縮みと変形が見られるため、横幕が船体側面の寸法と合っていない。このため船体側面を採寸し、最適寸法で仕立てた。

寸法

（左幕）	①現行幕	②新調幕
横（上辺）	5 2 3 0 mm	5 3 3 0 mm（+ 1 0 0 mm）
横（下辺）	3 4 3 0 mm	3 4 5 0 mm（+ 2 0 mm）
縦（前方部高さ）	1 1 7 0 mm	1 2 6 0 mm（+ 9 0 mm）
縦（後方部高さ）	7 6 0 mm	7 7 0 mm（+ 1 0 mm）

（右幕）	①現行幕	②新調幕
横（上辺）	5 2 2 0 mm	5 3 0 0 mm（+ 8 0 mm）
横（下辺）	3 4 1 0 mm	3 4 3 0 mm（+ 2 0 mm）
縦（前方部高さ）	1 1 5 0 mm	1 2 7 0 mm（+ 1 2 0 mm）
縦（後方部高さ）	7 6 0 mm	7 7 0 mm（+ 1 0 mm）

鉄パイプ部（1ヶ所）の上部開口

- ①現行幕 基布の縮みと変形によって、船体側面の鉄パイプ位置に開口部仕立て位置が合っていない。
- ②新調幕 幕を船体側面に仮装着して、鉄パイプ位置に正確な開口仕立てを施した。基布の補強の観点から、開口部周りにボタンホールかがりを施し、補強ニット

布をかぶせ縫い加工した。

ボルト孔の穿孔（水押木枠装着用2ヶ所、下部木枠装着用5ヶ所）

- ①現行幕 幕の寸法が船体側面と合わなくなっているため、穿孔箇所があいまいで裂傷もみられる。
- ②新調幕 横幕を船体側面に仮装着して、船体のボルト位置に正確に穿孔を施した。穿孔の加工は、経年使用による基布の縮みを考慮し、孔位置に融通を持たせるため、横スリット孔（巾約40mm）とした。
基布の補強の観点から、スリット孔周りにボタンホールかがりを施し、補強ニット布をかぶせ縫い加工した。

（3）鋳金具

- 龍の牙** 現行幕の龍の牙は全て、龍の顔の大きさに比して小さいため、形状は現品に倣い、最適な拡大率を割り出し、大きさを変更して作製した。

現行幕（右幕）の牙（金具）



新調幕（右幕）の牙（金具）



現行幕（左幕）の牙（金具）



新調幕（左幕）の牙（金具）



宝剣

現行幕の宝剣は、幕製作時のものではなく、作製時期が不明であり、応急的に製作されたものと思われる。形状もやや歪なため、現品を基調にしたデザインを調整して作製した。

取付け位置が図柄に合っていないため、妥当と思われる位置に取り付けた。

なお、基布を保護するため、裏座金を用いた。

現行幕の宝剣（金具）



新調幕の宝剣（金具）



新調幕の宝剣の裏座金



左幕

現行幕



新調幕



右幕

現行幕



新調幕



5. 図案製作仕様

新調幕に使用する刺繍生地、刺繍素材および銚金具、他備品については、現行幕と同等もしくは類似品のサンプルを提示し、修理指導委員会にて協議の上、承認されたものである。

刺繍技法については、主に藤井委員より監修、指導を受け、現行幕に忠実に刺繍を施した。なお、現行幕の刺繍はほつれと欠損がひどく、部分的に町民による刺繍糸の綴じ直し修理が施されていた。このため、オリジナル描線が復元困難な箇所についても藤井委員に指導を受け、適宜修正を施した。

(1) 龍（切付）

箇 所	素 材	綴じ糸	技 法
顔・手足 (完成写真1～4)	本金糸（丸金10～14掛） 真綿（肉盛り加工用）	赤	駒縫い
眉毛（左幕の口閉じ龍） (完成写真1)	正絹黒糸（諸撚り 4 × 4 本） （上撚りを逆撚り加工）	黒	綴じ縫い
眉毛（右幕の口開き龍） (完成写真2)	正絹黒糸（諸撚り 4 × 4 本）	黒	綴じ縫い
胴体（背部） (完成写真5、6)	本金糸（丸金14掛） 真綿（肉盛り加工用）	赤	駒縫い
胴体（腹部） (完成写真5、6)	本金糸（丸金14掛） 真綿（肉盛り加工用）	緑 色番35	駒縫い
口髭 (完成写真1、2)	本金糸（撚り金7掛）	赤	駒縫い
歯茎の筋 (完成写真1、2)	正絹赤糸（片撚り 7 × 1 本）	赤	駒縫い
角 (完成写真7)	本金糸（撚り金6掛）	赤	駒縫い
角の筋 (完成写真7)	正絹黒糸（諸撚り 2 × 2 本）	黒	縫いきり
背鰭・尾鰭・足鰭 (完成写真8～10)	本金糸（撚り金7掛）	赤	駒縫い
背鰭の筋 (完成写真9)	正絹黒糸（片撚り 8 × 1 本）	黒	駒縫い
火炎 (完成写真11)	正絹赤糸 (金搦み片撚り 10本×丸金6掛)	赤	駒縫い
髭（1対2組 4本） (完成写真1、2)	本金糸（丸金7、8掛） 芯材（針金Φ1.0mm） 罫紙（太さ調整用）	—	芯材に本金糸を巻き付け加工

箇所	素材	綴じ糸	技法
目玉(1対2組 4個) (金具3重加工) (完成写真12～14)	上面(瞳孔部) 銅板0.5mm厚(漆焼付け仕上げ) 中面(黒目部) 銅板0.5mm厚(本金メッキ仕上げ) 下面(白目部) 銅板0.8mm厚(クロムメッキ仕上げ)	—	打出し加工 (上部と下部金具 裏面に金具取付け 用の割ピンを溶接 加工)
爪、牙 左幕の口閉じ龍 (爪3個、牙2個) 右幕の口開き龍 (爪3個、牙5個) (完成写真3、15)	銅板0.5mm厚(クロムメッキ仕上げ)	—	打出し加工 (裏面に金具取付け 用の割ピンを溶接 加工)
宝剣(1個) (左幕の龍の尻尾に取付) (完成写真16)	銅板0.8mm厚(クロムメッキ仕上げ) 裏座金 銅板0.8mm厚	—	打出し加工 (裏面に金具取付け 用の割ピンを4ヶ 所溶接加工)

完成写真1 顔、口髭、眉毛、髭、歯茎の筋



完成写真2 顔、口髭、眉毛、髭、歯茎の筋



完成写真3 足、爪（金具）



完成写真4 足



完成写真5 胴体



完成写真6 胴体



完成写真7 角、角の筋



完成写真8 背鰭、背鰭の筋



完成写真9 尾鰭



完成写真10 足鰭



完成写真11 火炎



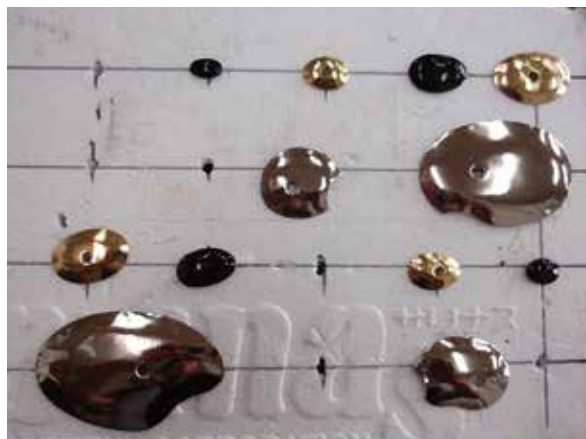
完成写真12 目玉（金具 3重加工）



完成写真 13 目玉 (金具 3 重加工)



完成写真 14 目玉 (金具 1 対 2 組 4 個)



完成写真 15 目玉、牙 (金具)



完成写真 16 宝剣 (金具)



(2) 波濤文様 (龍の背景) (基布に直縫い)

箇所	素材	綴じ糸	技法
波濤 (完成写真17、18)	本金糸 (丸金14掛)	赤	駒縫い

完成写真 17



完成写真 18



6. 各工程内容と技法の詳細

(1) 現幕分析、材料選定および調達（平成31年4月～令和元年5月）

①金糸選定

現行幕に使用されている金糸の種類（丸金又は撚り金）、太さ、箔の色目に合わせる。

②正絹糸選定

現行幕に使用されている正絹糸の染め色と撚り方および太さに合わせる。

③基布選定

現行幕に使用されている生地素材、織組織、色目を分析し、現状で入手可能な生地候補から最適な生地を選定する。

④鍔金具の分析

現行幕に使用されている龍の目玉、爪、牙の金具を分析し、素材・形状・塗り加工について現行品に忠実に作製できるようにする。ただし、変更が望ましいと思われる場合は、修理指導委員会に諮り、適宜修正する。

(2) 仕立て型紙および刺繍図案の下絵・構図作製（令和元年9月～10月）

①仕立て型紙の作製

船体側面の横幕装着部分を採寸し、それを基に型紙を作成する。

横幕の装着位置とそれに伴う刺繍図案の構図、装着方法(船体側面上部の横幕装着用フック位置および水押し部と下部のボルト位置)を確認する。

船首の鉄パイプ位置を確認する。



②龍(切付)の下絵作製

現行幕の龍の図案をコピーし、細部の描線を図案に忠実に補正する。

各切付刺繍図案を基布に取り付ける際の、真綿肉盛り加工による切付刺繍の縮小割合を見込み、下絵は概ね5%大きめに作製する。



③波濤文様の下絵作製（基布直縫い）

現行幕の図案を洋紙に摺り出した後、細部の描線を図案に忠実に補正する。

刺繍のはつれと応急修理などにより、オリジナル描線が補正困難な箇所については、周辺の図案とのバランス、波の流れと勢いに重点を置き、適宜修正を施す。



(3) 試作品の作製（令和元年11月～12月）

現行幕の龍の切付の一部分（顔、角、口髭、胴体が重なった箇所）と波濤文様の一部分を、それぞれ試作品として作製する。

現品分析で選定された刺繍糸を使い、現行幕の刺繍手法（駒縫い）に忠実に図案を刺繍する。

金糸の綴じ糸の色は、候補として選定した赤色と緑色、それぞれ2色ずつ色分けして試作し、修理委員会で協議の上、最適な色を採択した。金糸の太さ、図案の形、立体感など総合的に修正点を協議した。

龍（切付）の試作（顔、角、口髭、胴体）



波濤文様の試作



(4) 龍刺繍（切付）の作製（令和2年4月～12月）

①作製した龍の下絵を、和紙（黄色）に描き写して切り出したものを、刺繍台に張ったさらし布に糊貼りする。



②描線に沿って紙紐を綴じ付け、各部の輪郭を形作る。盛り上げ部に真綿をしつけ、糊で固めて、肉盛り部の下地を作製する。



③本金糸を使い、駒縫いで図案に忠実に刺繍を施す。



④切付刺繍 完成



(5) 龍の髭の作製

現行品の龍の髭の長さの針金を芯材として、太さを調整するため、針金に罫紙を何重にも糊付けしながら巻きつける。

現品の髭の太さに合せて、先端から根元に向けて少しずつ太く加工する。

芯材の針金は、波状に流れる髭の形状を作りやすいように、細めのものを使用する（針金の太さΦ1.0mm）。

本金糸を糊付けしながら隙間が空かないようにしっかり針金に巻きつけていく。

本金糸は先から根元に向かって巻く。

本金糸の太さは、先端から根元に向かって太くなるに従って、丸金5掛から6掛、7掛と徐々に太くする。



(6) 波濤文様刺繍（龍の背景 / 基布に直縫い）の作製（令和3年4月～10月）

①作製された下絵の描線を胡粉で基布に落とし、油性ペンで図案を忠実に基布に描写する。



②選定された刺繍糸（本金糸と正絹綴じ糸）を使い、現行幕の刺繍手法（駒縫い）で、現行幕に忠実に、図案を基布に直縫い刺繍する。

刺繍の仕上りの美観の観点から、波の始点と終点部分については、2本取りの金糸を少しずらして、1本ずつ引き込む手法に統一する。

金糸の欠損やほつれにより、下絵で修正を加えた箇所については、下絵に忠実に刺繍を施す。



(7) 龍（切付）の基布への取付け（令和3年4月～10月）

波濤文様（基布に直縫い）の刺繍作業と平行して、切付刺繍で作製された龍の各部位を、下紙のそれぞれの位置に忠実に、基布に順次綴じ付ける。その際、切付刺繍の下に肉盛り用の混紡綿を適量入れ、全体の形を整えながらあら綴じし、縁周りを細かく綴じ縫いしていく。現行幕の龍の切付は、経年劣化により肉盛り綿がへたっていたり片寄ってしまっているのので、混紡綿は全体に少し多めに入れて、現行幕よりやや盛り上げるように調整した。



(8) 仕立て（令和3年11月～12月）

現行幕は経年使用による生地の変色が著しく、船の形状に合っていない。そのため船体側面を採寸し、作成した仕立て型紙を基に、最適寸法で仕立てる。

幕装着用のロープを引掛けるフック位置に合わせて、一文字の裏面にロープを通す乳を縫い付ける。

なお、鉄パイプの上部開口位置および、水押し部と船体下部の木枠装着用ボルト孔の穿孔位置は、幕を船体に仮装着し、その位置を正確に割り出してから、開口および穿孔加工を施した。

①刺繍作業が完了したら、刺繍部裏面全面に均一に仕上げ糊を塗り、しっかり乾かす。



②基布の裏まで貫通させた目玉、牙、爪、宝剣金具の割ピンと髭の末端の針金を接着剤で裏生地に接着し、その上からあて布（さらし綿）を糊付けする。



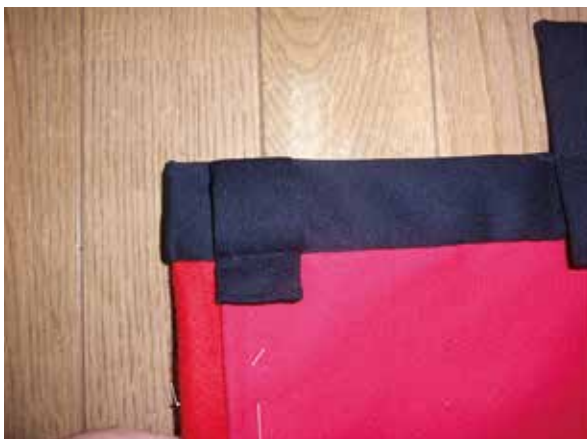
- ③刺繍部分の芯地用の裏あて生地（木綿さらし布）を残し、余分な生地を切り抜き、取り除く。
（この処理により、経年使用による基布の縮みによって起こる刺繍部分の歪みを軽減することができる。）



- ④仕立て型紙に忠実に基布を裁断し、裁断部を裏側に折り込み、裏生地（木綿ハンプ生地）を付けて額縁仕立てを施す。



- ⑤幕上辺に一文字裂を被せて仕立てた後、ロープ通しの乳を一文字裏面の指定位置に取り付ける。



- ⑥仮仕立てした横幕を船体側面に装着し、幕全体の装着状態を確認する。船首鉄パイプの上部開口位置および、水押し木枠と下部木枠固定用のボルト孔の正確な位置を確認する。



- ⑦鉄パイプの上部開口加工と、ボルト孔の穿孔加工を施す。
ボルト孔の形状は、経年使用による基布の縮みを考慮し、孔位置に融通を持たせるため、横スリット孔（巾約4cm）とする。
鉄パイプの上部開口部とボルト孔周囲の基布をボタンホールかがりして、補強ニット布でかぶせ縫いする。



7. 横幕の船体への取付け

(1) 横幕と船体の合わせ

〔現地作業〕

日 時 令和3年11月17日（水）午前10時～12時

場 所 四日市市東富田町 中島組神徳丸収蔵庫

〔経 過〕

刺繍が完成した横幕を船体に取り付けるため、船体に直接横幕をあてながら、ボルトの位置や横幕のロープを引っ掛ける釘の位置を測った。



(2) 船体への取付け（第1回）

〔現地作業〕

日 時 令和3年12月16日（木）午前10時～12時

場 所 四日市市東富田町 中島組神徳丸収蔵庫

〔経 過〕

11月17日に合わせたボルト位置や紐の引っ掛け釘の位置に基づき、ボルト用スリットや紐を通す乳を横幕に施して完成した横幕を実際に船体に取り付け、押さえの部材や彫刻を嵌めて具合を確認した。

横幕は、経年で縮むことが明らかなため、余裕を持って製作してあるが、水押しの部分では横幕がはみ出してしまう状態となった。彫刻の中に収まりをつけるため、前方部のはみ出る部分を切り取ることにした。



(3) 船体への取付け (第2回)

〔現地作業〕

日 時 令和3年12月22日(水) 午前10時～12時

場 所 四日市市東富田町 中島組神徳丸収蔵庫

〔経 過〕

12月16日に合わせた際に不具合が生じた箇所に修正を加えて、再度、横幕を船体に取り付けた。当初、横幕の前方部がボルト孔と上端の引っ掛けたロープによって極端に引っ張られてしまう状態になったが、ロープのテンションをしっかりと張り引っ掛ける釘の位置を適正に調整すると、しっかりと横幕を取り付けられ、押さえや彫刻の部材もきちんと嵌め込むことができた。これにより、新調した横幕の納品は完了した。



(4) 横幕の収納箱について

横幕は、中央部に切付の龍の刺繍があり、収納時には極力刺繍をよけて折り曲げる必要がある。修理指導委員会において、収納箱は、折り曲げたときのサイズに合わせたもので、かつ、災害時に持ち出しが可能な大きさが望ましいと指導を受け、新調する予定であった収納箱のサイズを調整した。また、折り曲げる箇所には、折り目が付きにくくなるよう一定の厚みのある棒状のクッションをあてるよう提言があった。



令和 4 年 3 月 22 日 発行

中島組鯨船神徳丸 船体横幕新調事業報告書

平成31（令和元）年度～令和 3 年度

重無民 鳥出神社の鯨船行事 民俗文化財伝承・活用等事業

編集 富田鯨船保存会連合会

百武打敷店

四日市市教育委員会

発行 富田鯨船保存会連合会

印刷 阿竹印刷工業株式会社

